

社会資本総合整備計画 事後評価書

令和07年12月08日

計画の名称	歩いて人もまちも健康になるまちづくり													
計画の期間	令和03年度～令和03年度(1年間)											重点配分対象の該当		
交付対象	尾張旭市													
計画の目標	大目標「歩いて人もまちも健康になるまちづくり」 目標1：駅を拠点に移動しやすいまちづくり 目標2：安全・安心に歩いて暮らせるまちづくり 目標3：楽しく歩いて、健康増進が図れるまちづくり													
全体事業費(百万円)	合計(A+B+C+D)		45	A	45	B	0	C	0	D	0	効果促進事業費の割合C/(A+B+C+D)	0	%

番号	計画の成果目標(定量的指標)			
	定量的指標の定義及び算定式	定量的指標の現況値及び目標値		
		当初現況値	中間目標値	最終目標値
		R3当初	R5末	R7末
1	交通がしやすいまちづくりを行い、駅及び駅周辺の満足度を26.0%(R元)から35.3%(R7)に増加を図る。 名鉄瀬戸線の駅及び駅周辺の整備や利便性に満足している市民割合(%) 駅(名鉄瀬戸線)及び駅周辺の整備や利便性について、「満足している」「やや満足している」と回答した市民の割合(アンケート調査)			
		26%	%	35%
2	安全・安心に歩けるまちの形成を図り、人身事故発生件数を23件(R元)から15件(R7)に減少を図る。 年間の人身事故発生件数(件) 年間(1月から12月)の人身事故発生件数(警察署定期調査)			
		23件	件	15件
3	歩きたくなるまちの形成を図り、健康な生活を送っている市民割合を56.1%(R元)から61.2%(R7)に増加を図る。 健康な生活を送っている市民割合(%) 健康な生活を送っていることについて、「送っている」「まあまあ送っている」と回答した市民の割合(アンケート調査)			
		56%	%	61%

備考等	個別施設計画を含む	-	国土強靱化を含む	-	定住自立圏を含む	-	連携中枢都市圏を含む	-	流域水循環計画を含む	-	地域再生計画を含む	-

A 基幹事業																			
基幹事業（大）	番号	事業 種別	地域 種別	交付 対象	直接 間接	事業者	種別 1	種別 2	要素となる事業名 （事業箇所）	事業内容 （延長・面積等）	市区町村名 / 港湾・地区名	事業実施期間（年度）					全体事業費 （百万円）	費用 便益比	個別施設計画 策定状況
		R03R04R05R06R07																	
		一体的に実施することにより期待される効果																	
備考																			
都市再生整備計画事業	A10-001	都市再生	一般	尾張旭市	直接	尾張旭市	-	-	尾張旭市やすらぎ拠点地区（都市再生整備計画）	道路、地域生活基盤施設等	尾張旭市						45	-	
		令和４年度から都市構造再編集集中支援事業へ移行。事後評価は都市再生整備計画（Ｒ３～Ｒ７）の期間終了時に実施。																	
											小計						45		
											合計						45		

事後評価	
事後評価の実施体制、実施時期	
事後評価の実施体制	事後評価の実施時期
令和6年10月25日から令和6年11月8日 庁内検討会 令和6年12月2日から令和6年12月13日 事後評価原案の公表 令和7年1月24日 評価委員会	令和6年度 令和5年度に都市再生整備計画を変更し、計画期間を令和6年度までに短縮したため、令和6年度に事後評価を実施。
	公表の方法 市ホームページ
事業効果の発現状況	
定量的指標に関連する 交付対象事業の効果の発現状況	名鉄印場駅の安全性・利便性向上に伴い、目標値を上回る満足度の向上が図られた。また、市全体の傾向としても増加割合が大きかった。 計測した結果として、交通事故発生件数と事業進捗の間に相関性は見出せず、従前地と同程度の結果となった。また、市全体においては減少の傾向にあった。 安全に楽しく歩ける環境整備により、目標値を上回る満足度の向上が図られた。また、市全体の傾向と比較しても増加割合が大きかった。
定量的指標以外の交付対象事業の 効果の発現状況（必要に応じて記述）	
特記事項（今後の方針等）	
・（都）霞ヶ丘線残地整備について、住民主体の利用及び維持・管理等を促進する。 ・地域住民と一体となって交通安全対策や環境整備を推進する。	

目標値の達成状況			
番号	指標（略称）		
	目標値 / 実績値		目標値と実績値に差が出た要因
1			
	最 終 目標値	35%	印場駅バリアフリー化をはじめとして、駅利用の利便性・安全性向上が図られ、市民の満足度も着実に向上した。
	最 終 実績値	46%	
2			
	最 終 目標値	15件	交通事故の発生件数抑制にはつながらなかったが、交通安全施設や歩行者空間整備により歩行者の安全性は向上している。
	最 終 実績値	23件	
3			
	最 終 目標値	61%	マップ整備によるウォーキングコースの周知や道路環境の整備により、健康づくりのための環境が構築され、健康に関する満足度も着実に向上した。
	最 終 実績値	61%	